

学 位 論 文 の 要 旨

氏 名

増留 麻紀子

学位論文題目

松井宏方の建築活動と設計手法に関する研究

本論文は、以下の5章によって構成されている。

- 第1章 序論
- 第2章 松井宏方の建築資料
- 第3章 松井宏方の建築活動
- 第4章 松井宏方の設計手法
- 第5章 結論

第1章 「序論」

本研究では以下の3点について明らかにした。

- ① 松井が所有していた資料（以下、松井資料）の編纂手法と資料の特徴
- ② 松井の建築活動
- ③ 松井の設計手法の特徴

既往のアーカイブ研究として海外の建築アーカイブズの資料管理手法に関する研究、資料の編纂手法や資料を迅速に閲覧者の利用に供するためのアーカイブ手法に関する研究があり、近年、近現代建築資料が注目され、アーカイブ化の需要が高まっていることを確認した。建築家の活動研究としては、広島や北海道で地域の建築文化を形成した建築家の研究などがあるが、戦後、海外を活動拠点とした日本人建築家に着目した研究は少なく、在外日本人建築家の実像を捉える重要性を確認した。建築家の設計手法に関する研究としては、ミース・ファン・デル・ローエ、丹下健三、清家清、村野藤吾の作品における一連の研究があり、空間要素の幾何学的分析や設計案を時系列に従って分析する手法など本研究に援用できる知見を得た。

第2章「松井宏方の建築資料」

松井資料の構成把握を行い、建築資料の活用を図るための編成方法を模索・検討し、資料目録を作成した。その結果、資料点数は、図面993点（プロジェクト数63件、東京期は確認されず、ミラノ期は499点/45件、鹿児島期は490点/17件）、P B 41点（37点はグレゴッティ作品、2点は松井の知人の建築家のもの）、スライド27,987点（東京期はみられず、ミラノ期が約1割、鹿児島期が約9割）、混在資料10119点であり、総点数は39,140点であった。また編纂における以下の留意点を得た。

- 1) 混在した資料の編成では番号付与の段階や方法を検討しておく必要がある。
- 2) 膨大な量の資料を編成する際は、各作業段階で最も重要な編成ルールの基準を随時確認しつつ進めていく必要がある。
- 3) 活用に向けた資料編成の項目を作成するためには、目録作成前にその人物の活動内容を十分に把握しておく必要がある。

第3章「松井宏方の建築活動」

第2章で整理された松井資料を主な資料として活用し、松井の遍歴を、東京、ミラノ、鹿児島の3拠点を活動期として捉え、建築やインテリア・家具の設計活動、寄稿による執筆活動、教育・研究活動の3つの活動に立脚して、松井の建築活動の把握を行った。その結果、以下の各期活動を明らかにした。東京期：1956年に剣持デザイン研究所に入社、内装や家具デザインを主に担当し、原寸図によるスケール感の重要性など剣持の設計思想が松井の中に培われた。ミラノ期：1974年のGregotti Associati 設立時からパートナーアーキテクトとして重要な役割を担い、イタリア建築文化などを日本に紹介する役割も担った。鹿児島期：1983年から晩年までは鹿児島大学等で教育・社会活動を行い、鹿児島に3つの建築作品を残した。それらの作品はグレゴッティ事務所時代の作品を彷彿とさせつつも鹿児島の地域性を考慮した設計が為されていた。

第4章 「松井宏方の設計手法」

鹿児島期における松井の作品である遣唐使館（南さつま市）およびトリアーデ妙円寺（日置市）に着目し、建設経緯及び建築概要を概観し、両作品の施設としての特徴を把握した。その結果、遣唐使館は松井が鹿児島大学赴任後、最初に設計した公共建築物であり、西立面デザイン、壁と斜面で囲った中庭、正方形窓の窓割、陰影、色彩計画にこだわって設計を行っており、トリアーデ妙円寺では、松井は敷地の特性を読み取り、当初より高低差を巧みに利用した住棟計画を検討しており、開放的な外部空間と向かい合った住棟が相互作用をもたらす計画がなされていたことを把握した。

次に両作品に関する言説や図面・スケッチから、以下の松井の建築思考及び建築表現の分析を行った。その結果、建築思考として、A. 設計初期段階においては敷地の状態や形状の検討、建物の配置計画、B. 立面検討、C. 色彩計画、D. 平面計画、構造形式の検討、E. 内部での見え方の検討、F. デティール、仕上げの検討の6段階があり、早期から立面計画や色彩計画が検討されている点が松井の特徴と捉えた。また、建築表現としては、イ. 中庭を挟んだ二の字配置、ロ. 直線形状（頂部を揃えた形状）、ハ. 正方形の使用、ニ. ポルティコ、ホ. 絵画的立面の5つの表現を得た。

更に、松井の最終講義ダイアグラム「読む・描く・構える×区切り・連なる・囲む」との関係性を総体的に検討し、以下の松井の設計手法を明らかにした。松井の設計手法においては、建築思考：Aは「読む」、建築思考：B・Dは「書く」、建築思考：C・E・Fは「構える」に対応するが、建築化する思考としての「構える」が初期段階の思考である「読む」や「書く」と渾然となった思考で行われており、また、「構える」に対応する思考において、立面計画や色彩計画が先行され、建築における美学や芸術性を重視するものとなっている。更に、建築表現としては、正方形をモチーフとした建築要素を繋げた（連なりによる）直線的形状（建築表現：イ・ロ・ハ）、内外の境界線（「区切り」）としてのポルティコが使用され、建物の二の字配置（建築表現：ニ）による囲まれた空間が中庭を形成しており、「連なり」や直線的形状を用いた挟み込みによる「囲み」は松井特有の手法と考えられる。また、立面に表現される絵画的手法の建築への援用は、松井の芸術的志向や遊び心が表現されていると考えられ、松井の経歴にみられる芸術活動の反映と捉えられる。

第5章 結論

各章で得られた結果を統括し、本研究の知見を結論としてまとめた。

以上により、建築家松井宏方の設計手法を明らかにした。松井は1960年代から80年代にかけて国内外、中央と地方で活躍した建築家であり、その多岐に亘る活動範囲の詳細を明らかにした。このような建築家の活動とその手法を明らかにしたことにより、近現代建築史の裾野を広げ、日本建築史研究の発展に寄与できたと考える。

Summary of Doctoral Dissertation

Title of Doctoral Dissertation: A study on the architectural activities and design methods of
Hiromichi MATSUI

Name: MASUDOME Makiko

This thesis comprises the five chapters; Chapter 1: Introduction, Chapter 2: Architectural Materials of Hiromichi MATSUI, Chapter 3: Architectural Activities of Hiromichi MATSUI, Chapter 4: Design Methods of Hiromichi MATSUI, and Chapter 5 Conclusion.

In Chapter 1, I surveyed previous studies related to this study and confirmed the importance of studies on compilation of documents in modern and contemporary architectural history and studies about architects who were active in local and overseas architectural fields. In addition, from the studies about architects' design methods, I obtained knowledge that can be applied to this study, such as geometric analysis methods of spatial elements.

In Chapter 2, I sought and examined ways to organize the architectural materials for their best use, and created an inventory of MATSUI's materials. The total number of MATSUI's materials was 39,140, including 993 drawings, 41 project books, and 27,987 slides and so on. And I got some points in the compilation process, e.g. it is important to consider numbering when organizing mixed materials.

In Chapter 3, I used the MATSUI's materials organized in Chapter 2 to understand MATSUI's architectural activities. The understanding focused on three locations; Tokyo, Milan, and Kagoshima, and three contents; design, contributions, and education. Tokyo period: In 1956, MATSUI joined Kenmochi Design Associates, where he was mainly in charge of interior and furniture design, and learned Kenmochi's design philosophy. Milan Period: MATSUI worked in Gregotti Associati as a partner architect from 1974, where also he communicated Italian architectural information to Japan. Kagoshima Period: From 1983 to his later years, he taught and studied at Kagoshima University and other institutions, and he designed three buildings in Kagoshima.

In Chapter 4, I analyzed two of MATSUI's works in the Kagoshima period to clarify the characteristics of his architectural thinking and architectural expression. His architectural thinking includes the following six phases: A. Studying and researching site conditions, shape and building layout, B. Elevations and window design, C. Color scheme, D. Floor planning and structure design, E. Interior appearance, and F. Detailing and finishing. It is a characteristic of MATSUI's design process that he studied elevations and color plans in the early phase.

MATSUI's architectural expression is characterized by: a. Linear layout with a courtyard between two buildings, b. Long linear shape, c. Square shape, d. Portico, e. Method of Painting.

Furthermore, I examined the relationship with MATSUI's final lecture, the diagram "Reading, Drawing, Composing and Division, Connection, Fencing" and clarified MATSUI's design method. In MATSUI's design method, "Composing" was simultaneous with "Reading" and "Drawing," and in the "Composing" studying elevations and color was prioritized, emphasizing aesthetics in architecture. The followings are considered Matsui's unique design techniques: to create a linear shape by connecting square motifs, using the portico as a boundary between the interior and exterior, and sandwiching the courtyard between two linear buildings. MATSUI's design method is considered as a reflection of his artistic activities as seen in his career.

In Chapter 5, I summarize the results of this study.